

1年道德通信

第5号

第5回 『いちばん高い値段の絵』



第5回の道德では、バルビゾン派の2人の画家であるミレーとルソーの友情を描いた物語を通して、真の友情について考えました。みんなにとって、“友達”とはいったいどんな存在ですか？普段の生活では、あまり「友達ってどんな存在だろう？」「真の友情って何だろう？」ということは考えたことがなかったと思います。今回の学習は、“友達”“友情”について改めて考える良い機会となりました。

みんなの意見

ミレーはどんな思いで、「この絵は、なんと幸せな絵だろう。」と言ったのでしょうか。

- 自分の絵を一番よく理解してくれる人のところにいたから。
- 親友に買われて大切にされていたから。ずっと大事に飾られていたから。
- 長い間ミレーが心を込めて描いた絵が、世界で一番深く知ってくれている人に行き渡ったから。
- この絵が一番好きな人のところにあって、大切にしてもらっていたから。

“本当の友達”とは、どんな存在なのでしょう。

- 互いに良くし合える存在。
- 自分のことを大切に思ってくれる。あかんことはあかんと言ってくれる。
- 助け合ったり何かがあれば一緒にやったりする。
- 自分のためにすごく優しくしてくれたり、厳しくしてくれたりする。
- 一緒に笑ったり、助け合ったりできる人。

**友達とは、
どんな存在なのだろう？**